

月ヶ瀬にワーケーションルーム誕生 施設を拠点に新たな社会モデル構築へ

給食センター跡を改修、大型調理器具は机や棚に



旧月ヶ瀬学校給食センターを改修したワーケーション施設

奈良市は10日、旧月ヶ瀬学校給食センター(同市月ヶ瀬尾山)を活用したワーケーション施設「仮称月ヶ瀬ワーケーションルーム」をオープンした。同施設を拠点に、地域住民や多様な企業・団体と共に課題解決を図る新たな社会モデルの構築プロジェクト「Local COOP 月ヶ瀬」を立ち上げ、令和7(2025)年の大阪・関西万博での成果発表を目指す。

同プロジェクトは、少子高齢化や人口減少、地域が抱える課題について民間企業やNPOなどをパートナーに迎え、地域住民らと共に解決を図る取り組み。ワーケーションルームが中核になる関係人口を創出し、住民一人一人の暮らしの充実と生きがい、地域の豊かさを創り、持続可能な地域社会の構築を目指す。

今回のワーケーション施設は、令和元年に廃止された旧月ヶ瀬学校給食センターを改修。使用されていた大型の調理用具も、机や本棚として活用されている。延床面積は466.3平方メートル。施設改修費用は2704万9000円。新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した。運営は一般社団法人ネクスト・コモンズ・ラボ。施設名や、施設前の運動場の活用は今後、地域住民らの意見を取り入れていく。

施設の利用時間は午前9時から午後5時まで。WiFiやモニター、ホワイトボード、プロジェクト、個室などの設備が用意されている。食品提供については申請中のため、現時点での販売はない。施設の利用料金は、個人会員が月1980円、企業会員が月3万円。地域会員(月ヶ瀬在住者)は無料で利用できる。

夏に地域課題を抽出するためのワークショップを開催。その内容をもとに秋以降に地域課題解決のための実証実験を行っていく。



調理室は会議ができる空間に



施設で使用されていた畳も一部を残し使用



月ヶ瀬住民は施設を無料で利用できる



施設内にはオープンとして利用できる薪ストーブも



大型の調理用具は机や本棚として使用



施設には個室も用意されている



感動のそばに、いつも。